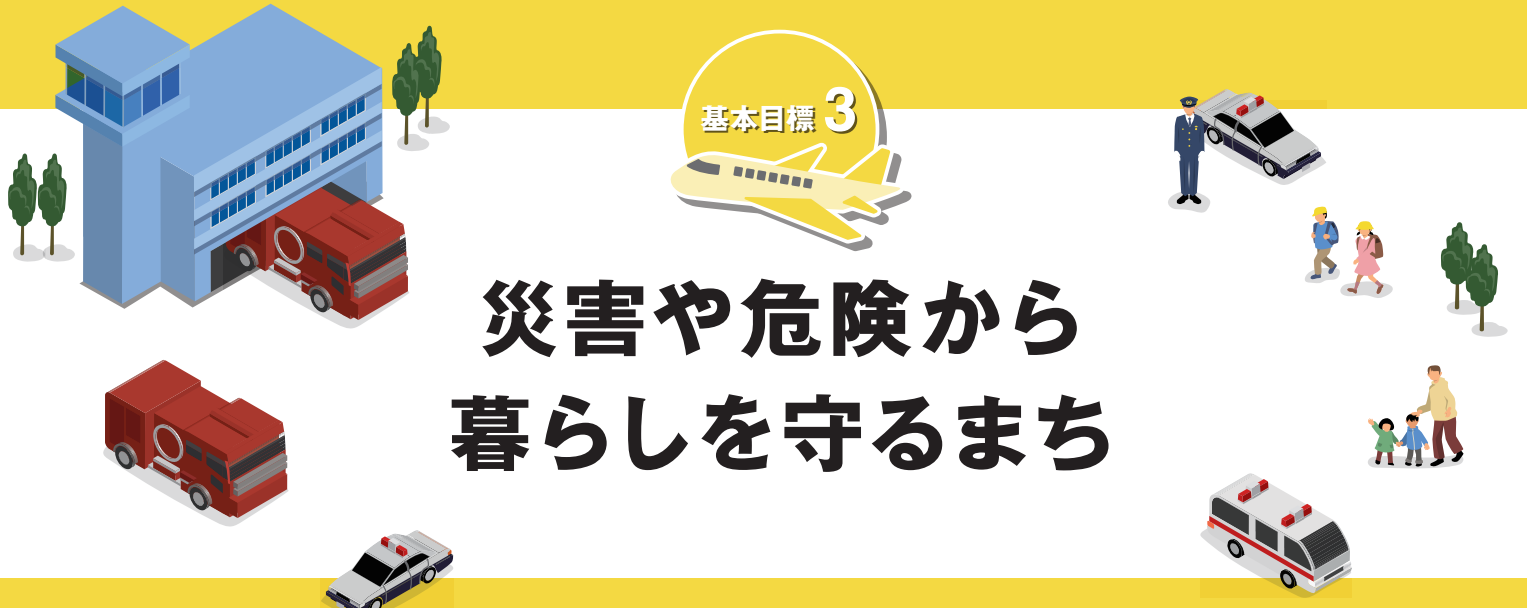




基本目標 3

災害や危険から 暮らしを守るまち

目標とするまちの姿

災害への備えの意識や日常生活と隣り合わせにある交通事故、犯罪などを未然に防ぐ意識を日頃から高め合い、安全・安心なまちづくりを着実に進め、被害を最小限に抑え、災害時もみんなで助け合い、困難を乗り越えることができる「災害や危険から暮らしを守るまち」を目指します。

展開方針

1. 防災・減災対策の充実強化を図り、災害等に強いまち・ひとづくりを推進します。
2. 交通事故や犯罪のない社会の実現に努めます。
3. 消防・救急体制の充実強化を図るとともに、火災予防を推進します。



展開方針1

防災・減災対策の充実強化を図り、災害等に強いまち・ひとづくりを推進します。

現状と課題

- 東日本大震災や熊本地震などの大地震をはじめ、全国各地では、台風・集中豪雨による風水害、火山噴火等の自然災害が頻発・激甚化※しており、北海道でも、平成30年(2018年)には、観測史上初めてとなる最大震度7を記録した北海道胆振東部地震が発生しました。
- 自然災害のほかにも航空機事故、外国からの武力攻撃や大規模テロの脅威、さらには、新型コロナウイルス感染症など世界規模での感染症流行の懸念もあります。
- 災害の発生を未然に防ぐことは難しいことから、災害時に適切な対応ができるよう、市民の防災意識を高めるとともに、被害を最小限に抑える「減災」の視点に立った対策が求められています。また、感染症流行下における災害の発生に備え、感染防止対策を講じた避難所運営などに取り組む必要があります。
- 千歳市には2つの陸上自衛隊駐屯地と1つの航空自衛隊基地が所在しており、日頃から緊急時の協力体制など良好な関係を築いています。今後も引き続き、防災関係機関及び協力機関との連携強化に努めていくことが必要です。
- 災害時の避難行動等において、特に支援を要する高齢者などの要配慮者や近年増加する外国人を含む観光客への対策のほか、女性など多様な視点を取り入れた対策を進めていく必要があります。



平成26年の大雨災害時の様子(美笛キャンプ場)

用語解説

※ 激甚化: その規模が特に甚大であり国民生活に著しい影響を与える事態となること。

市民の声

【市民アンケート】

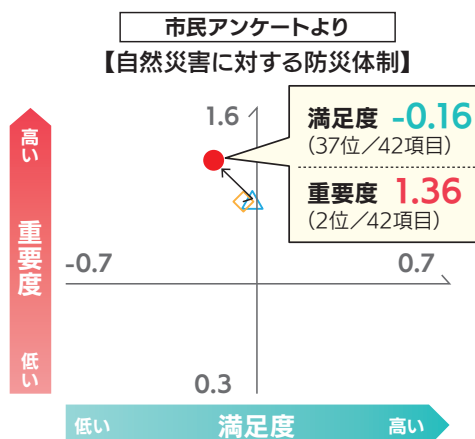
- 「自然災害に対する防災体制」は満足度が低く、重要度は比較的高いと評価されており、満足度は低下傾向に、重要度は上昇傾向にあります。
- 北海道胆振東部地震の際、防災無線が聞き取りにくく、災害時の情報発信の改善を求める声や避難所の対応の充実を求める声があります。

【まちづくりインタビュー】

- 高齢者から、町内会館を支援が必要な方が一時的に避難できる場所に指定してほしいとの声があります。

【都市経営会議からの提言】

- 胆振東部地震の経験を生かした、より災害に強いまちづくりをめざしましょう。
- インフラや交通網も含め居住環境において、住んでいる人の安心・安全、快適性、利便性、公平性の向上をめざしましょう。
- 市民同士がつながり、必要な情報が必要な人に届くようにしましょう。



基本方向

災害や予期せぬ危機から市民の生命及び財産を守るため、防災関係機関等※との連携を強化するとともに、市民の防災意識や災害対応力の向上を促し、女性や障がい者などの視点も取り入れた防災・減災対策の充実に努めます。

災害時に、高齢者、障がい者、乳幼児などの要配慮者や外国人を含む観光客など様々な人々に対して円滑に支援活動を実施するための対策を推進します。



千歳市総合防災訓練

用語解説

※ 防災関係機関等：災害予防、災害応急対策等の防災活動を実施するため、災害対策基本法の規定に基づき指定を受けている地方行政機関及び公共機関、自衛隊、警察などのこと。

展開方針2

交通事故や犯罪のない社会の実現に努めます。

現状と課題

- 千歳市は、北海道縦貫自動車道や北海道横断自動車道をはじめ、国道、道道など多くの幹線道路があり交通量が多い地域です。幹線道路、生活道路問わず、交通事故はどこでも発生する可能性があるため、交通安全対策については、地域や学校、交通安全関係機関・団体と連携・協力しながら全市的に進めていく必要があります。
- 昭和37年(1962年)に「交通安全都市」宣言を行って以来、全市民が一致協力して交通安全運動に取り組んでいます。今後も、悲慘な交通事故を防ぐため、超高齢社会の進展など、近年の社会情勢について考慮しながら、交通事故防止の取組を継続的に進める必要があります。
- 昭和63年(1988年)に「暴力追放・防犯都市」宣言を行い、犯罪のない明るいまちづくりを推進していますが、犯罪の多様化・複雑化が進んでいることから、これらに対応した取組を進めていく必要があります。
- 地域の防犯性を高めるため、町内会などに防犯灯の設置・維持管理費を助成しています。今後も町内会などと役割分担し、協働による犯罪が発生しにくい地域づくりを進める必要があります。
- ＪＲ長都駅周辺の地域では人口が増加傾向にあるため、防犯及び交通安全対策を更に進める必要があります。



交通安全フェア



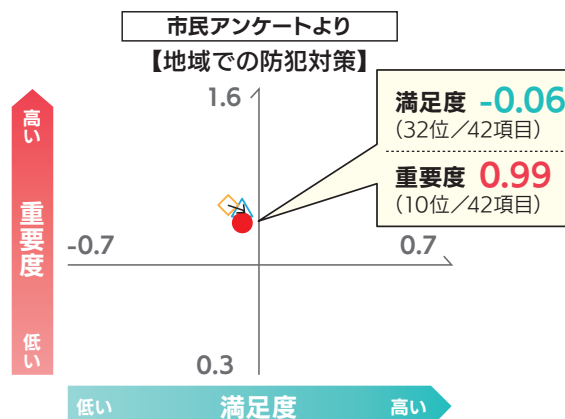
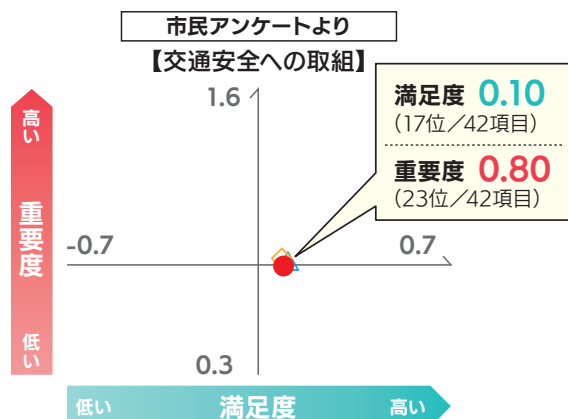
幼児の交通安全教室

市民の声

【市民アンケート】

■「交通安全への取組」は満足度・重要度ともに平均的と評価されています。

■「地域での防犯対策」は満足度は平均的で、重要度は比較的高いと評価されています。



【中高生・大学生アンケート】

■街灯を増やしてほしいとの声が、また、中学生からはJR長都駅に交番を設置してほしいとの声があります。(自由記述)

【まちづくりインタビュー】

■自衛官から他県と比べ、車のスピードが速いとの声があります。

【都市経営会議からの提言】

■人口増加が続く長都駅周辺の安全確保や交通網の整備を推進しましょう。

基本方向

交通ルール・マナー遵守の意識を一層高めるため、各種交通安全活動を展開し、市民に対する交通安全思想の普及・啓発に努めます。

交通安全施設の整備や信号機などの設置について、引き続き北海道公安委員会に要請するなど、歩行者や運転者の安全を推進します。

関係機関・団体や地域と連携・協働し、防犯の取組を進め、犯罪から地域住民を守ります。

展開方針3

消防・救急体制の充実強化を図るとともに、火災予防を推進します。

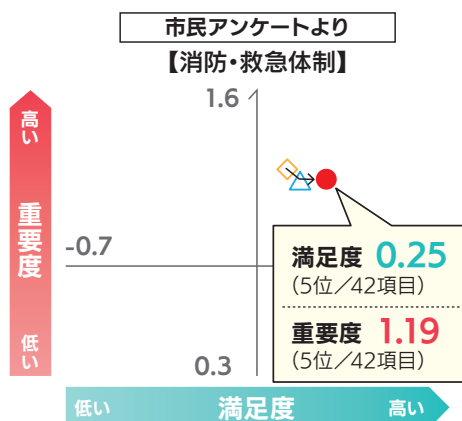
現状と課題

- 千歳市は、中高層化する建築物の火災をはじめ、交通の要衝^{※1}として航空機事故や鉄道事故、高速道路における交通事故のほか、大震災や大雨などの自然災害の発生が想定されます。これら各種災害に対応するため、消防組織を1本部1消防署5出張所と1団本部8分団で構成し、24時間体制で備えるとともに、北海道広域消防相互応援協定及び消防団相互応援協定^{※2}等に基づいた応援体制を整えています。今後、複雑多様化する災害に対応できるよう、老朽化した消防施設や消防車両については、計画的な維持管理に努め、災害対応力の更なる強化を図る必要があります。
- 高齢化の進展に伴い、救急出動件数は増加傾向にあることから、より効率的かつ迅速な救急活動を実施するため、救急隊員の質の向上及び市民に対する応急手当の普及活動等に努め、救命率の低下を防ぐ必要があります。
- 千歳市の火災件数は、近年、減少傾向にありますが、今後も住宅火災警報器の普及・啓発や広報活動により、市民の防火に対する意識づくりを進めるとともに、建築物や危険物施設等に対して、消防法に基づく立入検査を計画的に実施し、火災の抑制を図る必要があります。

市民の声

【市民アンケート】

- 「消防・救急体制」は満足度が高く、重要度も比較的高いと評価されており、満足度は上昇傾向にあります。



基本方向

- 地域の実情を踏まえた、消防施設、装備及び人員の計画的な整備、配置を推進します。
- 市民の生命を守るため、処置範囲の拡大に伴う救急隊員への教育や救急資機材等の充実を図り、救急業務の高度化を推進します。
- 火災予防思想の普及・啓発を図るとともに、建築物や危険物施設等への立入検査を強化するなど、火災の抑制に努めます。

用語解説

※1 交通の要衝：新千歳空港をはじめ、JR鉄道、高速道路、国道などが結節し、交通面で重要な場所となっていること。

※2 北海道広域消防相互応援協定、消防団相互応援協定：大規模災害や特殊災害が発生した場合に、北海道内の市町等の消防及び消防団が相互に応援することを取り決めた協定のこと。